



春江だより

1月号

令和7年1月8日

## 「一日一歩」 確実な歩みで

校長 小林 麻子

令和7年を迎えました。昨年は、子供たちの健やかな成長に向けて、保護者の皆様・地域の皆様の多大なるご支援ご協力をいただき、感謝申し上げます。これまでの教育活動をさらに発展させ、一人一人の児童が成長を実感できる学校創りを実現していきたいと思っております。本年も春江小学校の子供たちのために、教職員一同、教育活動に全力で取り組んでまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2025年は乙巳（きのとみ）です。乙は、「木」の要素をもち、草木がしなやかに伸びる様子や横へと広がっていく意味をもちます。巳（蛇）は、古くから豊穰神・天候神として信仰の対象とされてきました。脱皮をする蛇から、「復活と再生」を連想し、皮を脱ぎ捨て新たな姿に生まれ変わる姿その象徴となり、不老長寿や強い生命力につながる縁起のいい動物と考えられています。こうした意味から、乙巳年は再生や変化を繰り返しながら前向きに柔軟に発展していく年になると解釈されています。

今年、春江小学校は開校60周年を迎えます。今秋、開校60周年記念集会や記念式典を行います。子供たちには、春江小学校の節目であるこの時を、多くの春江小学校関係の皆さんと共に過ごすことのできる喜びを感じてほしいと思っております。そして、先人の方々が築いてきた60周年という歴史を改めて振り返るとともに、この乙巳の年に周年を迎える春江小学校を前に進めてまいります。

始業式では、3学期に大切にしたい2つのことを話しました。1つ目は、「目標をたてて、やり続ける・努力し続けることです。物事をやり抜くことは簡単ではありません。「一日一歩」を心掛け、こつこつと確実な歩みを積み上げよう」と伝えました。2つ目は、「思いやりをもち、友達の心に寄り添うやさしさを大切にすること」です。自分がやさしい気持ちで相手に接することで、自分にも相手からやさしさが返ってくるものです。温かく心が通い合う学校生活は、きっと全校児童に更なる心の成長を遂げさせるはずで、互いのよさを認め合い、励まし合いながらともに伸びていく姿に喜びを感じる毎日であってほしいと思っております。多くの友達や先生と関わりながら、現学年の集大成を迎え、新旧の準備・希望を膨らませる3学期にしていきます。保護者・地域の皆様の変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

2年1組の担任として、高山 直子教諭が着任しました。前任は江戸川区立第三葛西小学校で勤務されておりました。それに伴い、3学期からの3年、6年の習熟度別算数指導は若山 俊彦教諭が担当に戻ります。

パリパラリンピック陸上競技に出場した、本校の卒業生である松本武尊さんが、2月に春江小学校を訪問してまいります。活躍の様子をうかがえるのが楽しみです。